

オオカワズスゲ カヤツリグサ科

Carex stipata Muhl. ex Willd.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



日南町 2008.7.14/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：中国地方では広島県のため池で確認されていたのみで、鳥取県内のものが2カ所目である。本種の分布拡大には水鳥が重要な役割を果たしていると考えられ、県内の分布は興味深い。

■**特徴**：湿地に叢生するスゲ。葉鞘の上部は膜質で横皺がある。有花茎は50–60 cmが多く、3鋭稜で著しくざらつく。花序は多数の小穂を円柱状につける。小穂は雄雌性。果胞は広披針形で嘴が長く、縁はざらつき、脈がある。よく似たヤガミスゲは花序のつかない茎が夏季に倒れること、果胞に明らかな翼があることで見分けられるが、県内ではまだ確認されていない。生育地は日南町の小さい湿地内面積4 m²ほどで個体数も少ない。この湿地には、ヤマトミクリ、ミヤコアザミも生育している。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道、本州（関東、中部以北）、広島県。

■**保護上の留意点**：山間の小さい湿地の保護。厳重な採取防止。

■**文献**：65.

執筆：坂田成孝

ヒトモトススキ カヤツリグサ科

Cladium jamaicense Crantz subsp. *chinense* (Nees) T.Koyama

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2007.7.21/撮影：神谷 要

■**選定理由**：県内西部の海岸沿いに孤立して生育。米子市の埋め立て地では管理方法が自生を大きく左右する。

■**特徴**：海岸湿地に生育する大型の多年生草本。桿は叢生し、高さ約2 mに達する。葉は根元から多出し、桿の節からも葉を出す。葉は厚く、辺縁や脈に鋭い鋸歯をもつ。ススキのように手を切りやすい。花期は8–10月、散房花序。果実は広楕円形。県内では、大山町の海岸と米子市の埋立地草地で自生が確認されている。

■**分布** 県内：米子市、大山町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：海岸後背草地の保護。

■**文献**：—

執筆：神谷 要

チャボイ カヤツリグサ科

Eleocharis parvula (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子市 2007.6.28/撮影：神谷 要

■**選定理由**：県内での分布はきわめて限定され個体数も少ない。絶滅の危険性がきわめて高い。

■**特徴**：希少な湿性植物で海や汽水域に隣接する湿地や休耕田に生育し、砂泥の堆積した湿地にマット状に広がる多年生草本。高さ3–5 cmでやや太くてやわらかく背の低いマツバイのように見える。茎頂に一つだけ小穂をつける。株を抜くと小さな塊茎がついている。

■**分布** 県内：米子市。県外：四国、九州にまれ。

■**保護上の留意点**：海岸湿地の保全。

■**文献**：—

執筆：神谷 要

マシカクイ カヤツリグサ科

Eleocharis tetraquetra Nees

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



伯耆町 2011.10.4/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育地は水田用水路の水湿地であるが、自生地が極めて少ないうえに、自生環境の改変のため絶滅が懸念される。

■**特徴**：低地の山間の水湿地に生える多年草。伯耆町のため池から流れる水田用水路の水湿地に小さな群落が見られる。根茎は短く、茎は鋭い4稜があり、横断面は真四角、高さ50 cmほどになる。小穂の鱗片はやや皮質、鈍頭、密に並ぶ。刺針状花被片の小刺は密生し下向きにつく。果期は9–10月。用水路がコンクリート化され、生育に適した水湿地が減少している。今後も注意深く見ていく必要がある。

■**分布** 県内：伯耆町。県外：北海道，本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：山間の水田耕作継続と水湿地的な性質をもつ用水路の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

コマツカサスキ カヤツリグサ科

Scirpus fuirenoides Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2010.8.8/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：湿地状の場所に生育し、県内では日南町に数カ所の他は2カ所で生育が確認されるのみ。互いに孤立している。

■**特徴**：日当たりのよい湿地に生育する多年草。有花茎は硬く、断面は鈍い三稜形、高さは80–120 cmに達し、節が4–5個ある。葉は線形で硬く幅3–5 mm、縁がざらつく。花序は側生する1–2個の花穂と、頂生の5–6個の花穂が散放状となって形成する。花期は8–10月。果実は10–30個が集まって球状となり、完熟すると褐色になる。

■**分布** 県内：鳥取市，日野町，日南町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：県内のコマツカサスキは、使用されていないため池や小規模湿地の堆積部分に生育している。管理者に湿地の重要性を認識してもらい、改修や管理には当該種に対する配慮が必要。

■**文献**：—

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ヒナラン ラン科

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



若桜町 2010.7.7/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では山地のやや乾いた崖壁にわずかに分布、確認個体数も少ない。過去に多く園芸用採取されたため激減してきた。

■**特徴**：山地のやや乾いた崖壁の岩棚などに生育する小形のラン科草本。葉は長さ5–7 cm、幅1.5 cmの狭長楕円形で基部に1個つく。花期は6月下旬–7月上旬。淡紅紫色の小花を5–15個を総状につける。容易に近づけない岩崖にのみ残る。

■**分布** 県内：若桜町，琴浦町，日野町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：大規模な岩崖に生育するため、環境変化は少ないと思われるが、厳重な採取防止が重要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ムギラン ラン科

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



三朝町 2010.6 / 撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：県内での生育地はきわめて限定的。個体数少なく、絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：高さ3 cmほどの小型の常緑草本。茎は細く、長くはい、まばらにひげ根と偽球茎をつける。偽球茎は卵形で長さ5–8 mm、緑色。葉は偽球茎の先端に1枚つき、卵状楕円形で長さ2 cm前後。初夏、短い花茎を出し、直径4 mmの小さな白花を1–2個つける。

■**分布** 県内：鳥取市・用瀬町、三朝町、南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。濟州島。

■**保護上の留意点**：採取防止。地域住民への保護啓発と照葉樹林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：森本満喜夫

エビネ ラン科

Calanthe discolor Lindl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



南部町 2010.5.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内各地の山林下に点在。山野草として安定した人気があり、常に採取圧があるため、減少の懸念が強い。

■**特徴**：山地の森林内に生育する多年生ラン科草本。偽球茎が地表近くに連なる。葉は根生、2–3枚、倒卵狭長楕円形、長さ20 cm、幅4–6 cmほど、無毛。花は4–5月、萼は花被状で平開し淡紫緑褐色、唇弁は帯紫白色で3深裂する。花は10以上。県内の丘陵地–山林に点在し、すぐに絶滅が心配されるほどではないが、個体数は多くない。花色が微妙に違う株が珍重され、採取される。乱獲されると県内全体で一気に希少化する可能性があり、動向に注意が必要。

■**分布** 県内：点在。県外：北海道南部、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

キンセイラン ラン科

Calanthe nipponica Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2010.7.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地は限定されており、生育本数も少ない。また、園芸用採取のため激減している。

■**特徴**：山地の林内に生育する多年生ラン科草本。葉は広い披針形で5–6枚つき、エビネの葉に似るがキンセイランのほうが幅が狭い。7月上旬ごろ淡黄色の花を7–10個咲かせる。現在確認している生育地は、いずれもスギ林の林床で生育本数もわずか、群生せず孤立的に生育している。

■**分布** 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：スギ林の強度間伐などによる急激な環境変化、および嚴重な採取防止をはかる必要がある。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ナツエビネ ラン科

Calanthe puberula Lindl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2007.9.6/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内各地の山地林下に点在する。山野草として人気があり、採取圧が強いため、減少の懸念が強い。

■**特徴**：落葉広葉樹林に多く分布し、照葉樹林にも分布する常緑の多年生ラン科草本。葉は根出、倒卵状長楕円形、長さ10–25 cm。花期は7–9月、淡紅青色。10–20ほどの花をつける。葉だけではエビネと区別は難しい。県内の丘陵地から山地に点在し、すぐに絶滅する可能性は低い、ただし1地点の個体数は少なく、採取による自生地の減少が懸念される。

■**分布** 県内：点在。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

キエビネ ラン科

Calanthe striata R.Br.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



鳥取県内 2010.5.7/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内に局地的、隔離的に少数個体が生育する。エビネ類の中でも花が目立ち最も採取圧が高く、いつ絶滅してもおかしくない。

■**特徴**：山地暖温帯林に生育する常緑の多年生ラン科草本。エビネやナツエビネに比べ、植物体が大形。花期は5月。萼、花弁ともに鮮黄色、唇弁中央部付近と隆起線は赤紫色。円錐状に約20個つき、目立つ。東部にある自生地は、所有者により林床の手入れが定期的に行なわれており、3株のみだが良好に生育している。採取圧が高いため、自生地情報の入手自体が困難である。

■**分布** 県内：非公開。県外：本州（福井県以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生地森林の急激な環境変化防止，採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ギンラン ラン科

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2010.5.28/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が限定されており、生育個体数も少ない。生育地は、落葉広葉樹内の歩道横や古い側溝周辺が多い。

■**特徴**：低地–山地の広葉樹二次林内や林縁に生育する多年生ラン科草本。ギンランに比した名前と思われるが、より小さめで高さ10–20 cm。葉は3–6個互生し、長楕円形で長さ3–8 cm、基部は茎を抱く。花は、白色で長さ約1 cm、茎の上部に1–8個つき、花期は5月中旬–下旬。2011年になってギンランによく似たクゲヌマラン (*C. longifolia*) が大山で発見された。クゲヌマランは花に距がなく、葉が硬く長楕円状披針形–線状披針形でやや厚く、にぶい光沢がある。今後の調査がまたれる。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止と生育環境の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明・谷亀高広

ユウシュンラン ラン科

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



大山町 2008.5.15 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生地は数地点で、個体数も少ない。林床の変化に弱く、イノシシによるかく乱で絶滅した場所がある。

■**特徴**：環境変化の少ない樹林下や竹林内に生育する多年生ラン科草本。茎は高さ3-10 cmで、長さ3 cmほどの葉が2-3枚つく。花は5月上-中旬に咲き、色は白色。自生地は、常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、竹林などの林下で下層植生の少ない安定した場所であるが、草本が増加傾向にある場所が多い。

■**分布** 県内：鳥取市鹿野町、大山町、南部町、江府町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の急激な環境変化を避ける。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：矢田貝繁明

キンラン ラン科

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



日南町 2006.5.28 / 撮影：野津 昭

■**選定理由**：里山の遷移や管理放棄による荒廃により激減。野生ランブームでの乱獲が追い打ちをかけた。

■**特徴**：里山や丘陵地のやや明るく乾燥気味の林床、林縁、山道沿いに生育する多年生地生ラン。茎は直立、まれに50 cmを越えるものもあるが通常は30 cm程度。縦じわのある鋭突頭広披針形の葉5、6枚が互生し茎を抱く。分枝はしない。花期は4-5月。金色の花は全開することはなく常に半開き状態、夜は閉じる。萼と花弁は同色同形、総状に約10個が上向きにつき平開しない。全県に分布するが、単生し個体密度は低い。山地に多いが、平地の市街地に近い林床にも見られることがある。

■**分布** 県内：点在。 県外：本州（秋田県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：里山環境の再生保全。採取防止。栽培困難の周知。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：野津 昭（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ササバギンラン ラン科

Cephalanthera longibracteata Blume

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



大山町 2011.6.19 / 撮影：谷亀高広

■**選定理由**：県内での生育地は限定されており、生育本数も少ない。生育環境の悪化や盗掘などにより個体数が減少している。

■**特徴**：山地の、やや乾いた明るい林内や林縁沿いに生育する多年生ラン科草本。茎は高さ30-50 cmで、葉は狭楕円形-披針形、長さ5-15 cm、幅2-3 cmで葉脈が顕著。6月頃白色の花をつける。自生地は、登山道脇などの林縁部が多いが、いずれの場所でも数個体が見られるに過ぎない。

■**分布** 県内：三朝町、大山町、江府町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：登山者による踏みつけ防止、登山道整備時の注意、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

トケンラン ラン科

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



大山 2009.6.7/撮影：矢田具繁明

■**選定理由**：県内での自生地は数えるほどで、個体数は少ない。鳥取市の自生地では絶滅した可能性がある。採取圧も高い。

■**特徴**：ブナ帯域の林床に生育する多年生ラン科草本。地下茎は細く、卵円形の偽球茎につながる。葉は2枚、長さ10–15 cm。しばしば紫斑点がある。花は5–6月。白色で暗紫色斑点が多数、唇弁は3裂する。大山では2010年には120株程度が確認され、開花は25株ほどであった。個体数には年変動があるが、総じて減少気味である。自生地での草刈りが有効と思われる。鳥取市鹿野町では2009年以降見つからず、絶滅が懸念される。

■**分布** 県内：鳥取市鹿野町、大山町。県外：北海道、本州、四国。

■**保護上の留意点**：自生地の急激な環境変化を避ける。ササ繁茂防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54。

執筆：永松 大

クマガイソウ ラン科

Cypripedium japonicum Thunb.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



県内 2010.5.10/撮影：永松 大

■**選定理由**：個体がかたまって集団をつくるが、絶滅してしまった場所が多く、県内での自生地は数えるほどしかない。場所が知られると採取されるおそれが非常に高い。

■**特徴**：スギ林下に生育する多年生ラン科草本。地下茎が横走り、長期的な栽培は困難。高さ30 cmほど、大型で扇型の葉を2枚つける。大型の袋状唇弁が特徴的。5月頃横向きにぶら下がるように咲く。集中的にモニタリングを行っている3自生地のうち、1カ所では最近5年間衰退傾向が続いている。スギ林の手入れ不足も、本種の衰退に関係しているものと考えられる。モウソウチクの繁茂が影響している自生地もある。

■**分布** 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の急激な環境変化を避ける。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：53。

執筆：永松 大

イチヨウラン ラン科

Dactylostaix ringens Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取市佐治町 2000.5.31/撮影：松本 綾

■**選定理由**：林内環境の変化に敏感で自生地少なく、個体数が少ない。花や草姿の人气が高く、愛好家による採取圧も高い。

■**特徴**：深山のやや陰湿な苔むしたところに生える多年生ラン科草本。葉は根出し、和名のごとく1個つく。広卵形で、長さ約5 cm、やや堅い肉質である。花期は5–6月、茎頂に1個横向きに咲く。唇弁は白色、褐色の斑点がある。萼片と側花弁は細長く黄緑色。花茎は直立し、高さ約15 cm。写真の場所では2010年には、生育が確認できず絶滅の可能性がある。

■**分布** 県内：智頭町、鳥取市佐治町。県内では深山のスギ林内に数カ所確認されていたが、最近見られなくなった場所もある。県外：南千島、北海道、本州、四国、九州。日本固有。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。自生地森林の急激な変化防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：松本 綾

セッコク ラン科

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



県内 2006.6.8 / 撮影：長尾利宏

■**選定理由**：生育地はほぼ岩壁に限られる。園芸目的での採取圧が非常に高いため、容易に近づける場所にはほとんど残っていない。

■**特徴**：岩上や樹上に着生する多年生ラン科草本。草丈5–25 cm，根茎は短く，多くの根を持つ。葉は披針形で長さ4–7 cm，幅は1 cm内外，光沢があり肉厚。葉が落下した茎の上部数節から花茎を伸ばし，先端部に白から淡紅色の花を5–6月頃数個咲かせる。萼片は20–25 mm，中央に短毛を持つ。花には芳香がある。数年おきに開花が集中する年がある。鳥取市佐治町の自生地は2006年頃，着生していた岩壁が崩れて絶滅した。

■**分布** 県内：若桜町，三朝町，江府町，日野町，日南町。県外：本州（岩手県以南）から沖縄。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。岩崖地および周辺の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54.

執筆：長尾利宏・永松 大

コイチョウラン ラン科

Ephippianthus schmidtii Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2004.7.28 / 撮影：田中修一

■**選定理由**：県内では氷ノ山の高標高域にわずかに生育するのみ。きわめて絶滅の可能性が高い。本種の分布南西限個体群のひとつ。

■**特徴**：亜高山性針葉樹林下にはえる小型の多年草。葉は1個，長さ2–5 cmの柄があり，広卵形，長さ1.5–3 cm，幅1–2.5 cm，鈍頭，基部は心形，表面に網状の脈があり，ふつう緑色であるが，濃紫色のものもあり，これはムラサキコイチョウランとよばれる。花茎は高さ10–20 cm，7–8月，淡黄白色–淡黄緑色の小花をまばらに2–7個つける。兵庫県側でも確認。

■**分布** 県内：氷ノ山。県外：千島，北海道，本州（中部以北），四国。

■**保護上の留意点**：自生地周辺の樹林の保護が重要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：4,81.

執筆：高橋 宏

カモメラン ラン科

Galearis cyclochila (Franch. et Sav.) Soó

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



長野県大鹿村 2010.6.15 / 撮影：谷亀高広

■**選定理由**：県内では，1980年代に大山で撮影されたものが写真集に収められている。撮影者から，標高1300 m付近の風衝草原に数本生育していたとの証言を得て調査を行ったが，2009，2010年とも個体の発見には至っていない。

■**特徴**：山地から亜高山帯のやや湿った林縁に生育する多年生ラン科草本。高さ10–20 cmほどになり，茎には翼がある。葉は広楕円形で1枚が根生する。6月頃花茎を伸ばし，唇弁に紫色の斑点の入った淡紅色の花を咲かせる。過去に大山に生育していたのはほぼ確実であるが，現状は不明で，さらなる調査努力が必要。

■**分布** 県内：大山町（現状不明）。県外：北海道，本州（中部以北），四国（まれ）。

■**保護上の留意点**：調査努力の継続，大山風衝草原の保護。

■**文献**：41.

執筆：矢田貝繁明

オニノヤガラ ラン科

Gastrodia elata Blume var. *elata*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2007.7.20/撮影：永松 大

■**選定理由**：ブナ林下に見られる腐生植物で、県内での分布確認地は少ない。ナラタケと共生し、生育環境の微細な違いが影響する。

■**特徴**：大山、氷ノ山、那岐山などの標高900 m前後のブナ林、ブナを伐採した後の樹林下にはえる無葉緑腐生ラン科草本。茎は円柱形で直立、黄赤色、高さ1 mに達する。膜質の1 cmほどの鱗片葉をまばらにつける。花期は7月、黄褐色でつぼ状の花を総状花序に多数つける。花期は短く確認しにくい。毎年同じ場所には見られず、周辺にみられることが多い。ごく近縁のシロテンマが大山に生育、茎は短く花は淡黄色である。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、智頭町、三朝町、大山町、伯耆町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

シロテンマ ラン科

Gastrodia elata Blume var. *pallens* Kitag.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IA類 (CR)



大山町 2010.7.22/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地は、古くからある歩道の横、草刈りの行われている園地などであるが、個体数はきわめて少ない。

■**特徴**：山地の樹林下や林縁に生育する大形の無葉緑腐生ラン科草本。ナラタケと共生する。茎は円柱状で高さ40–60 cm、7月中旬ごろ、白色–淡黄色の花を穂状につける。

■**分布** 県内：大山町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育に適した森林の保護と草刈りなどの生育環境の維持が必要。

■**特記事項**：シロテンマはオニノヤガラの品種とする見解もあるが、環境省レッドリスト記載種のため、ここでは独立して扱った。

■**文献**：104.

執筆：矢田貝繁明

クロヤツシロラン ラン科

Gastrodia pubilabiata Sawa

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2010.10.14/撮影：谷亀高広

■**選定理由**：自生環境の変化に弱く、生育条件が限られている。

■**特徴**：緑色葉を持たない菌従属栄養植物。スギ林、モウソウチク林を好む。地上部は花期で高さ0–4 cm、果実形成期は花茎が伸長し30 cm内外。花期は9–10月で、茶褐色の地味な花を数個咲かせる。花の直径は約1 cm。本種は以前アキザキヤツシロラン (*G. verrucosa*) と同定されていたが、2009年にクロヤツシロランであることを確認した。アキザキヤツシロランの花は壺状で平開せず、唇弁は白色で無毛であるのに対し、クロヤツシロランの花は平開し、唇弁は黒褐色で剛毛が生える点が異なる。

■**分布** 県内：鳥取市国府町から倉吉市にかけての湿った林分。 県外：本州（関東以西）から四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生環境の保全。目立たない植物のため見逃されやすく、存在が知られぬまま自生地が開発され消滅する危険性がある。

■**文献**：3.

執筆：谷亀高広

ツリシュスラン ラン科
Goodyera pendula Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取市 2000.7.20/撮影：清水寛厚

■**選定理由**：自生が確認されているのは県内1カ所のみ、近づきがたい場所のため、2000年以降、生育確認ができていない。

■**特徴**：深山溪谷の岩上や樹木に着生する多年生ラン科草本。トチノキやイタヤカエデの多い場所に自生地がある。自生確認は、台風による倒木に着生していたところを偶然発見されたもので、通常見つけるのは大変困難。目立つ花ではないが、園芸採取される植物で、全国的に希少化がすすんでいる。自生地はほとんど人の入らない場所で、近づくことも容易でないが、今後の調査努力が必要である。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。東アジア。

■**保護上の留意点**：自生地の急激な環境変化を避ける。自生地の保全。

■**文献**：—

執筆：清水寛厚・永松 大

ミヤマウズラ ラン科
Goodyera schlechtendaliana Rchb.f.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2008.8.22/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内に点在するが、個体数は多くない。すぐに絶滅するおそれは小さいが、よりきめ細かな調査を行う必要がある。

■**特徴**：平地から山地の林床に生育する小型の常緑性ラン科草本。茎は高さ10-20 cm。葉は互生、やや肉厚で全縁。長さ2-5 cm。基部は広くさび形。葉の表には白い斑がある。花期は8-9月、淡紅色。県内では東部を中心に生育が確認されているが、中西部での分布状況はよくわかっていない。林床にあって目立たないため、注意が必要。

■**分布** 県内：低山に点在。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の急激な環境変化を避ける。自生地の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

ノビネチドリ ラン科
Gymnadenia conopsea (Cham.) Miyabe et Kudô

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山 2008.6.13/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内自生地は大山に限られ、生育本数はごくわずかである。盗掘や生育地の崩落、周辺植生の変化などで減少している。

■**特徴**：ブナ帯-高山帯域に生育する多年生ラン科草本。茎は直立し高さ30-60 cm、葉は縁が波状で、5-10個つき互生し上のものほど細くなる。花は6月ごろに咲き、淡紅色で穂状の花序に多数つく。大山では、標高1400 m以上の草地にわずかに生育している。県内東部でも以前には高標高域の林道法面で確認例があったが、樹林化などの環境変化により現在は絶滅。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道・本州・四国・九州。

■**保護上の留意点**：嚴重な盗掘防止対策と草地の維持管理が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ミズトンボ ラン科

Habenaria sagittifera Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子市 2010.9.1/撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での生育地が極めて限定・孤立しており，希少性が高い。ここ数年で個体数が減少傾向にある。

■**特徴**：日当たりのよい湿地に生育する高さ40–60 cmの多年生草本，茎は3稜形で直立，無毛。地下には新旧2個の球茎がある。葉は線形で長さ5–20 cm，幅3–6 mm。先は次第に尖る。基部は梢状で茎を抱く。花期は8–9月，帯緑白色の花が直立した穂状花序をつくる。唇弁は線形で3裂，長さ約2 cm。距は長さ約1 cmで垂れ下がり，先端が球状に肥大する。ずい柱は側花弁に抱きかかえられる。和名は花の形をトンボにみたてたもの。

■**分布** 県内：鳥取市国府町，米子市。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：生育地にはクズやカヤツリグサ科の植物が繁茂して，ミズトンボの生育を妨げている。湿地の草刈り等の保全が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ホクリクムヨウラン ラン科

Lecanorchis japonica Blume var. *hokurikuensis* (Masamune) Hashimoto

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2011.6.16/撮影：谷亀高広

■**選定理由**：県内の常緑広葉樹林に稀産。自生環境の変化に弱い。

■**特徴**：緑色葉を持たない菌従属栄養性種。主に樹木と共生し生育するベニタケ科の菌種（担子菌類）から養分を得て生育する。地上部の高さは30–60 cm内外。6月上旬頃に茶褐色の花を1本の花茎につき3–6本咲かせる。自生地では花が終わった後の花茎が発見されることが多く，形態の特徴に乏しいため種レベルの同定が困難。今年，著者により開花状態の株が発見され，ホクリクムヨウランであることが確認された。

■**分布** 県内：鳥取市から倉吉市にかけて常緑広葉樹林内。 県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生する林分の環境保全。目立たない植物のため見逃されやすく，存在が知られぬまま自生地が開発され消滅する危険性がある。

■**文献**：2,63.

執筆：谷亀高広

セイタカズムシソウの近縁種 ラン科

Liparis aff. japonica

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



大山町 2011.6.21/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が限られており，生育本数もきわめて少ない。山野草として採取されることも多く，見かけることが稀で，いずれ絶滅が考えられる。

■**特徴**：山地のやや湿った林内に生育する多年生ラン科草本。高さは40 cmに達し，長さ10–18 cmの卵形–卵形長楕円形の葉が互いに2枚出て花茎を抱く。花期は6月中旬頃で，茎の上部に淡緑色–帯紫色の花をまばらに数個つける。なお，ここに記載した植物は，文献94において「Type3」として記載されている個体群に含まれることが2011年夏に明らかとなった。このタイプはセイタカズムシソウに近縁で，仮称：アキタズムシと呼ばれている。

■**分布** 県内：大山町。 県外：本州，四国。

■**保護上の留意点**：採取防止。積極的な系統維持の検討。

■**文献**：94.

執筆：谷亀高広・矢田貝繁明